

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 — — —)

事業所番号	0673000550		
法人名	社会福祉法人 朝日ぶなの木会		
事業所名	グループホームかたくり荘		
所在地	山形県鶴岡市熊出字東村157-2		
自己評価作成日	令和 3年 2月 3日	開設年月日	平成 16年 2月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合 オール・イン・ワン		
所在地	山形市松町4丁目3番10号		
訪問調査日	令和 3年 3月 11日	評価結果決定日	令和 3年 3月 18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度はコロナウイルス感染症拡大防止の為、外部との交流や外出活動を自粛することになりました。入居者の家族と会えない寂しさ、家族もどんな状況で過ごしているのか心配することもあり、直接電話で話をしたり、感染者が庄内地区にいない時は窓越し面会ではありますが、すこしでも顔を合わせて、どちらも不安なく過ごせるように、またお便りの回数も増やし、ホーム内での状況を伝えるようにしています。その中で、入居者の出来ることを見極め、役割を持たせることで自信を持ち役割を持って生活できる様に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食器拭き・洗濯物たみ・パズル作り等利用者の「できること」を見つけ、役割を通して利用者の「自信と生きがい」を醸成するとともに、コロナ禍でも紅葉ドライブ・室内からの花見・バイキング昼食会等様々な楽しみごとを企画し、利用者のストレス解消に努め、「その人らしく穏やかな生活が出来るように支援します」という理念の実現に取り組んでいる。介護計画と詳細なケース記録を基に、利用者の生活の様子や介護目標・評価を記載した「月まとめ」と発行回数を増やしたホームだよりを家族に送付・共有することで家族との信頼関係が構築され、協力し合いながら利用者を支えている。自己評価と上司面談を通して職員の指導・育成に努めるとともに、職員アンケートで出された提案を運営に反映する仕組みが構築されており、今年度は人材確保委員を中心に業務の改善案がまとめられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念は常に見える所に掲示したり、会議のレジメに記載している。グループホームの理念も常に見える所に掲示したり、勤務表に記載し、日々目的意識を持って実践に努めている。	法人理念と事業所理念を目に付く場所に掲示し、会議のレジメや勤務表等に印刷して、職員の意識を高めている。月例会で唱和し、折に触れて振り返りを行い、役割を通して利用者の「自信と生きがいが」を醸成し、「その人らしく穏やかな生活が出来るよう支援します」という理念の実現に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナウイルス感染拡大防止の為外部との交流できていない。	例年は保育園訪問、中学生の職場体験、御詠歌・そば打ちのボランティアなど地域との様々な交流があるが、今年度はコロナ感染拡大防止のため外部との交流は制限を余儀なくされている。コロナの終息状況を見ながら段階的に制限を緩和していく意向である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回の運営推進会議では市担当職員や地域の代表者に入居者の状況や認知症状について話させてもらい、理解を求めている。他今年度は外部との交流はできていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を開催。事業報告とヒヤリハット報告している。そこで出された意見や改善点などは事業所に持ち帰り、サービス向上に努めている。	コロナ禍においても、運営推進会議は市職員、区長、民生委員、家族代表等が出席し、2ヶ月に1回開催されている。事業所から運営状況、ヒヤリハット・事故状況を報告し、運営上の課題、コロナワクチンの予防接種、災害訓練などについて意見交換が行われ、委員から出された意見やアドバイスをサービス向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとして出席して頂き、情報の共有に努めている。疑問点があればその都度助言して頂ける関係性が出来ている。また、介護認定の調査についての連絡を取り、関係性を築くようにしている。	身体拘束適正化委員会の議事録回覧や身体拘束や虐待に関する研修を通して「身体拘束禁止」を職員に周知している。帰宅願望の強い利用者に対しては、職員間で原因や対策について話し合い、所在確認の徹底、見守り・寄り添いなどにより利用者の安全確保に努め、不適切な対応の無いよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束等適正化委員会を3か月に1回開催。研修を行い、参加できなかった職員にも会議内容を回覧し、職員全体に周知している。入居者の所在確認は職員間で声をかけながら行っている。玄関の戸にオルゴールをつけ、無断外出の予防に努めている。	身体拘束適正化委員会の議事録回覧や身体拘束や虐待に関する研修を通して「身体拘束禁止」を職員に周知している。帰宅願望の強い利用者に対しては、職員間で原因や対策について話し合い、所在確認の徹底、見守り・寄り添いなどにより利用者の安全確保に努め、不適切な対応が無いよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて虐待について研修し、職員間で防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している入居者がいない為、研修は行っていない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や保険制度改正時、介護度変更の際は内容を家族に説明しその都度署名捺印をして頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に年1回アンケートを実施し、サービスの向上に努めている。また、サービス担当者会議などで直接意見や要望を聞き反映するようにしている。今年度は介護相談員など外部へ表せる機会はなかった。	普段から利用者の言葉に耳を傾けるとともに、家族が話し易い環境づくりに努め、面会時・サービス担当者会議などで意見・要望を聞き取りしている。利用者の生活の様子や介護目標・評価を記載した「月まとめ」は家族向けに、専門用語を使わず、分かりやすい表現にするよう、管理者が指導している。また、家族アンケートの実施、発行回数を増やしたホームだよりの送付を通して情報を共有し、いただいた意見・要望・評価を運営に反映させている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員に年1回アンケートを実施し、意見や次年度の取り組みなどの提案を反映できるようにしている。また、今年度は人材確保委員中心に業務の改善案を出してもらい、改善に努めている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の取り組みにて各自向上心アップに繋げている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度はコロナウイルス感染拡大防止の為研修会をあまり行えていない。少人数での研修やネットの動画を各自見てもらい、研修としている。	人事考課制度に基づき、職員が目標を設定し、管理者が評価・指導することで職員の育成に取り組んでいる。内部研修は年間研修計画に従って実務的な研修が行われ、外部研修は管理者が職員の力量を勘案して派遣し、研修後に伝達研修が行われているが、コロナ禍で今年度は内部研修のみの実施となっている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今年度はコロナウイルス感染拡大防止の為グループホーム協議会の研修会には参加していない。しかし、電話などで情報の共有に努めている。	山形県グループホーム連絡協議会や市介護事業所連絡会議主催の会議や研修会に参加し、他事業との情報交換やネットワークづくりに努めている。コロナ禍の今年度は電話による情報交換にとどまっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けての期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居開始前に本人と面談を行っている。想いをくみ取りながら不安なく入居できるようにしている。本人の意向も確認し、計画書にも取り入れている。入居後も不安な事は無いか、要望は無いか話をする機会を多く持つように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居開始前に家族と面談し、生活状況や健康状態、認知症状、要望など聞き取りしている。家族の意向も確認し計画書に取り入れている。入居後いつでも相談できる体制である事伝えている。家族と一緒に本人の生活を支えていける関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の家族との面談の際に、必要な支援はないか話しているが、今のところホーム内での支援での実施のみである。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出勤時には入居者一人一人に挨拶を大切にしている。1対1で会話する時間をもち一緒にいる時間を大事にしている。家事仕事など一緒に行い、同じ時間を共有している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	都度状況報告している。日々の生活の様子を文章にして毎月発送し報告している。ホーム便りを2ヶ月に1回発行し、ホームでの様子を写真でも見て頂いている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	面会できない状況でも家族と繋がる事が出来るように電話で話したり、窓越しでの面会で姿だけでも見られるようにしている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って一緒に会話を楽しむことで交流が出来るようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族が困らないように、必要に応じて終了後のサービスについて支援や助言をしている。同法人の施設に入所した際は様子伺いに行き声をかけたりしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や家族からの情報を基に問いかけし、訴えや希望を伺っている。日中の暮らし方も本人の希望で居室で趣味のパズルをしていたり、自由に過ごせるよう配慮している。	アセスメントシートを活用し、利用者は日常会話から、家族は行事・訪問の際に思いや意向の把握に努めている。意思表示が困難な利用者は、表情や仕草から思いや意向を汲み取るよう努めている。「気づき」はケース記録により職員間で共有し、介護計画に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面接で家族から生活歴、生活環境等の聞き取り、また担当ケアマネジャーよりこれまでのサービス利用状況の聞き取りを行い状況把握に努めている。入居後は更に本人との会話の中から生活歴などの把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録で1日の過ごし方がわかるようにしている。また、1日2回のミーティング、1日3回の申し送りにて、職員間で共有している。日々の関わりの中で家事や作業のお手伝いして頂き、その入居者にあった事を工夫し1日の過ごし方を考えて取り組んでいる。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者がケース担当者から情報収集し、3ヶ月に1回モニタリングを行い、介護計画の評価を行っている。状況に合わせた介護計画書の見直しも行っている。年1回は家族を含めたサービス担当者会議を行い家族と情報共有をしている。	毎月担当者が利用者の生活の様子と介護目標・評価を記載した「月まとめ」を作成しており、これを基に3ヶ月毎にモニタリングを行い、計画の見直しを行っている。年1回は家族からサービス担当者会議に家族も出席いただき、情報共有するとともに、見直しにあたっては家族の意見を反映させ、現状に即した介護計画を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個人のケース記録を記入し、バイタル測定はパソコン入力し、体調変化が一目でわかるような取り組みを行っている。3ヶ月に1回ケアチェックを行い、職員会議にて情報共有を行っている。		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はコロナウイルス感染拡大防止の為、地域との交流は実施できなかった。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の定期回診にて適切な医療が受けられるように配慮している(協力医による定期回診)。外部受診は家族の協力を頂きながら対応している。体調変化時は都度家族へ連絡し、早期対応、受診に努めている。	利用者・家族が希望するかかりつけ医を継続しているが、協力医を希望する利用者が大半を占めている。外部受診の際は家族が同行しており、医師への情報提供も行われている。協力医による定期回診や3ヶ月毎にケアチェックが行われ、適切な医療を受けられるよう支援している。受診結果は回診記録に記載され、「月まとめ」や電話で家族に報告されている。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタル測定を行っている。異常や状態変化があった場合は隣接する施設看護師に報告、相談し、指示対応を受けることが出来るようになっている。夕方は施設看護師に日中の状況報告を行っている。緊急時は駆けつけて頂いたり、夜間も相談できる体制になっている。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先病院に入院前の身体状況を情報提供している。入院後は状況確認に病院訪問したり、病院関係者と電話でやり取りするなど情報共有に努めている。また知り得た情報は協力医、また施設看護師にその都度報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に「重度化した場合及び終末ケアについて」を書面にて説明し、同意を頂いている。また、重度化及び終末期の意向調査を実施している。その後も年1回のサービス担当者会議にて家族に意向を確認している。家族、協力医、施設看護師と連携を図り、状況にあったケアが出来るようにしている。	利用開始時に重度化・終末期対応について家族に説明し同意を得ている。その後も毎年家族の意向を確認している。重度化した場合は医師、看護師、家族、職員等が方針を共有しながら対応している。終末期ケアの内部研修も行われている。目標達成計画に掲げた「利用者の急変時の対応」については取り組みが行われている。	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル整備を行い、緊急時の対応が出来るようにしている。心肺蘇生法研修は今年度は動画にて研修を行っている。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間防災訓練を計画し実施。地震、火災想定での避難訓練、また水害想定での避難訓練では実際隣接の2階の建物に避難している。停電に備えて、土鍋での炊き出し訓練も行っている。	毎月事業所単独の訓練・研修が行われ、年1回は消防署の協力を得て、火災・地震・水害・夜間等様々な事態を想定した防災訓練が実施されている。また、水害時におけるチーム目標の設定・評価を行い、災害対策に取り組んでいる。有事に備え、自家発電装置の設置、法人及び事業所での備蓄も行われている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や虐待の内部研修を行っている。声掛けについて、都度職員間で声掛けし、改善に努めている。	繰り返し接遇研修・プライバシー研修を行い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。声掛けは、親しみのあまり馴れ合いにならないよう、職員同士で注意し合いながら、日常業務の中で改善に取り組んでいる。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各担当者を中心に一人ひとりの会話に時間を持つことを意識し、本人が自己決定できるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせ、起床を拒むときは時間をずらし食事を提供したり、就寝時も消灯は本人に任せるケースもある。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅で使用していたスキンケアは継続するようにし、その人らしいオシャレが継続出来るようにしている。月1回の理容の日にて散髪している。また、入居前に通っていた美容室に希望があれば出かけている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もらった野菜や山菜等の下処理を一緒にしながら、どんな調理をしたらいいか聞いている。季節や行事に合った献立、自分で選べるバイキング食、出前なども取り入れている。食後の片づけやテーブル拭き、食器拭き等手伝ってもらっている。	献立は職員が作成し、差し入れの野菜・山菜、自家菜園の新鮮な食材を使用し、3食とも事業所のキッチンで調理している。利用者も調理の過程に参加し、職員と会話をしながら食事を楽しんでいる。色鮮やかでバラエティに富んだ行事食、寿司の出前、バイキング昼食会等で食事のアクセントにも配慮し、自家菜園のさつま芋を使用したおやつ作り等を企画し、食事が楽しみなものになるよう努力している。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回体重測定を実施し、体重管理を行っている。水分不足、食事量低下の入居者の対してはチェック表に記録し、好むおかずを取り入れたり、高カロリー食を取り入れながら献立の工夫もしている。咀嚼困難な入居者に対しては安全を確保するため隣接する施設より介護食を提供してもらっている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを声掛け実施。困難な方へは支援を行っている。毎日歯ブラシとコップの洗浄を行い、週1回は消毒を行っている。年1回歯科検診実施し口腔内の状態を把握している。治療が必要な入居者は家族に相談し対応している。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、一人ひとりの排泄状況を把握している。それに合わせたトイレ誘導を行う事で失禁の減少に努めている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握したり、表情や仕草から読み取り、適時声掛けや誘導を行い、出来る限りトイレでの排泄を支援している。おむつの利用も日中は便座に座ってもらい排泄を促すことで、排泄の自立に向けた支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や荘内歩行等の運動を取り入れ、水分強化に努めている。バランスの良い食事を心掛け、毎日飲むヨーグルトを提供し排便を促している。排泄チェック表にて排便状況を把握し個々に応じた対応をしている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の状況に合わせて入浴日を設定し、体調やタイミングを見ながら入浴を楽しめるように工夫している。1人ずつゆっくり入浴してもらいプライバシーに配慮している。状態に合わせ湯船につかることが出来ない入居者に対しては足浴やシャワー浴にて支援している。	利用者の希望や体調を考慮し、週2回の入浴を確保し、清潔の保持に努めている。身体能力が低下した利用者には二人介助で対応したり、浴槽に浸かることが困難な利用者には足浴やシャワー浴で対応している。リラックスした利用者との会話から得られた「気づき」をケース記録に記載し、介護計画に繋げている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で使用していた寝具を持って来てもらい、自宅に近い環境作りを行っている。個々の好みに合わせて室温調整を行っている。日中の関わりを多く持ち、個別に話を聞くことで不穏なく入眠できるように努めている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の内服サンプルを準備し、薬セット時に参照している。一時的な追加薬も随時日付等記入し忘れないように留意している。個人の健康ファイルを作成し現病や内服薬の把握に努め、記録を行い、体調変化時に早期対応が出来るように努めている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、テーブル拭き、洗濯物たたみ、ゴミ箱作りなど出来る事を見つけ、手伝う事への喜びや達成感が得られるように努めている。パズル作成などその人に合った創作活動を行っている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナウイルス感染拡大防止の為家族や地域からの協力や、外出は余りできなかった。敷地内にある畑を見に行ったり、収穫の手伝いはして頂いた。秋は感染対策をとり、車2台で紅葉狩ドライブには出かけ、久しぶりに外の景色を楽しんで頂いた。	コロナ禍でありながら、敷地内の散歩、自家菜園でキュウリやさつまいもの収穫、紅葉ドライブ、食材の買い出しなど外気に触れる様々な機会を確保している。家族の協力を得て、美容室通いの利用者もいる。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理困難で紛失の恐れが有る為、金庫に預かり小遣い帳に記入し管理している。毎月家族に小遣い帳の写しを郵送しトラブル回避に努め、家族来荘時には閲覧してもらい承認印を頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけ会話できるように職員が間に入っている。年賀状や手紙のやり取りができるよう都度支援している。携帯電話を持参している入居者もいる。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除や適切な室温・湿度管理を行い快適に過ごせるようにしている。入居者が作成したパズルや創作活動の作品を展示したり、季節の飾りつけを心掛け、ホーム内でも季節を感じたり、楽しめるように工夫している。整理整頓に努め、危険なものはないようにしている。	共有空間は掃除が行き届き、定時の換気、適切な温度・湿度管理が行われ、明るく清潔に管理されている。乾燥期は加湿器や除菌装置が設置され、感染症予防に配慮されている。手作り創作品や季節の飾り付けを行い、居心地よく過ごせるよう工夫されている。和室やソファでは気の合った利用者同士が会話を楽しんでいる。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室・談話室・居間を使い分け、気分や体調に合わせて好きなところに移動して過ごして頂いている。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを自宅から持ってきていただいている。創作活動の作品を飾ったり、家族写真や好きな絵を貼り、心地よく過ごせるように工夫している。	使い慣れた調度品や家族の写真等を持ち込み、創作品とともに自宅と同じような飾り付けを行うことで安心して居心地よく過ごせるよう工夫されている。掃除は職員と利用者が一緒に行っている。携帯電話を持ち込み、家族との会話を楽しんでいる利用者もいる。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室わかりやすく大きく表示している。施設内に手すりを設置し、安全に移動できるようにする。必要に応じ、ベットにL字バーを設置し、自身での起き上がりをサポートしている。衣装ケースに表示テープを貼り、自身で出し入れがしやすいように工夫している。			